

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.116 - 2018年8月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

教皇ベネディクト十五世のMaximum Illud マクシムム・イルドには、「宣教師」を養成する緊急な必要性について明確な指針が見いだされます。すなわち、福音宣教を担うすべての人をふさわしく育成することです。ありうる宣教師の「反養成（宣教者の姿をゆがめるもの）」について、非常に明確な言及があります（「貪欲」、「我を忘れた利益の追求」）。今日、民族主義、植民地主義、単なる物質的・社会的開発にとどまるミッション、などの言葉を加えなければならぬかもしれません。この文脈で、「無私の心」、普遍性、そして何よりも宣教師の生活の

パン種グループ

先号に引き続き、教皇庁立宣教会の宣教グループの体験を紹介します。この実践例は、私たちの青少年司牧のうちに宣教グループ、宣教運動を創設するヒントや動機を与えてくれるかもしれません。



「パン種グループ」は、そのメンバーである若者が、個人また共同体として養成され、自らの人間的な、キリスト者としての、宣教のための取り組みを、置かれた環境

で、またその境界を超えて生きることができるようにするものです。各グループは、イエスの使徒の数に倣い、12人の若者で構成されます。各グループは自分たちのアニメーターを選び、アニメーターは自らの生き方と宣教の活性化を通して、メンバーの成長を助けます。年に2回、または年に1回、この奉仕をする若者を交代させることができます。皆が何らかの形でリーダーシップを取りグループに奉仕する経験をしなければなりません。宣教師の名前、あるいは宣教の意味を表す言葉をグループの名前にします。

宣教のパン種グループが提供する奉仕：

- ・家庭、学校、仲間、小教区、最も助けを必要とする人々、社会全般の中で、普遍的な視野を持つ若者を示す。
- ・宣教の日の開催に参加する（世界宣教の日、教皇庁使徒聖ペトロの宣教事業、宣教する子どもたち、教皇庁宣教連合）。
- ・世界的宣教、また若者たち自身への宣教に、若者としての協力を、10月に「宣教する若者」の日を広めるため、世界宣教の日への協力。
- ・若者のグループや宣教する子どもたちのグループに同伴する。
- ・若者のための合宿やそのほかの宣教活動を促進、開催する。
- ・宣教地の教区、そのほか必要とされる場所のためにチームを養成する。
- ・宣教地の司祭・修道者の召命のため、教皇庁立使徒聖ペトロの宣教事業を通して、霊的、物的支援を行う。
- ・教皇庁立宣教会の機関紙や宣教支援について広める。
- ・小教区の宣教委員会、教区宣教事務局との連携。
- ・小教区の週ごとの主日ミサにあずかり、生き生きと祝う奉仕に参加する。
- ・「境界を超えて」、「一年間の宣教奉仕」をささげる。教会を離れているカトリック信者に宣教する、あるいは福音を聞いたことのない人々に福音をもたらすための支援として。

取り組み

- ・若いキリスト者としての真実な生き方、秘跡にあずかる生活の宣教的なあかし。
- ・宣教に関するテーマで行われる毎週の研修、そ



霊性と聖性が大きく強調されます：「宣べ伝える人は神の人」、「愛に燃える人でなければなりません」。

サレジオ会は「ドン・ボスコのサレジオ会員の宣教のための養成」（2013年ローマ）の意識とそのための明確な取り組みにおいて、成長を続けています。その取り組みは、ドン・ボスコの子らにとって変わることなく大切な優先的働きです。

宣教論の学び、それにかかわる専門の取得、またad gentesすべての人への福音宣教の取り組みに直接かかわる学問諸分野の学び・専門の取得は、会の中でますます重要なこととして位置づけられなければなりません。

J. Basanés

宣教師顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

のほかの活動への参加。

- ・世界中の宣教活動のための日々の祈り。
- ・各自、自分の宣教召命を培う。
- ・「境界を超えて」福音宣教する。ほかの若者たちを活性化させることによって。
- ・個人の献金。10月に福音宣教省、使徒聖ペトロの宣教事業へ届けるために。

サモアの新しい宣教師



ベトナムにこのようなことわざがあります「Thời gian vùn vút như thoi đưa 時は瞬く間に過ぎ去る」。そう、時は過ぎ去ります。誰のことも待たずに、決して戻ることなく。私が宣教地に来て、間もなく2年になります。初めは多くのことが見慣れない変わったことに思いましたが、今はこの美しい国、サモアの宣教師の生活に慣れてきました。

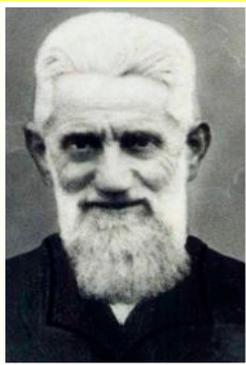
私は2016年11月13日、ベトナム、ホーチミン市から飛行機に乗り、香港、フィジーを経由し、初めてこの地に降り立ちました。空から見ると、ここが、神様ご自身が創造された美しい国であることわかります。太平洋に包まれた二つの大きな島です。近づいて見ると、島を囲むサンゴ礁に打ち寄せる波がよく見え、それは大変美しい景色です。サモアの面積は2,842㎡(とても小さな国土です)、約20万人が暮らしています。農業と観光が経済の主な二つの柱です。人口の19%がカトリック信者です。

まず、私はこの国のいくつかの習慣に少なからず驚きました。第一に、共同体はたいてい、夕食の前に少なくとも30分、互いにおしゃべりし、その日にあったあらゆる出来事について話し合います。第二に、人々の家を訪ねると、たいていとても歓待され、家族と一緒にの食事に招かれます。食事の前に、客人は、手を洗う水をはった鉢を差し出されます。客は敬意を表すため両親と一緒に食卓に案内され、子どもたちは別の食卓で食事をします。食事の間、一人の人が給仕のためだけにそこにいます。別の人が客と両親に新鮮な風を送るためにうちわであおぎます。食事が終わると、客が手を洗えるように、また水をはった鉢が差し出されます。さまざまな料理がありますが、「タロ」が主食です。

サモアには二つの共同体があります。一つはウボル島にあります。6人の会員が、約300人の生徒の通う技術専門学校を運営し、三つの教会のある小教区を司牧しています。もう一つの共同体はサヴァイ島にあります。4人の会員が約300人の生徒が通う中学・高校と職業訓練センターを運営、三つの教会のある小教区を司牧しています。私は最初の2か月をウボルですごし、それからサヴァイ島に移り、今に至っています。

この1年の私の主な担当は、9年生(日本の中3)にコンピューターを教えることでした。また、コンピューター室の管理、学校の掲示板も担当しました。生徒たちと直に接しながら働けるのがとてもうれしいです。良い心の、正直な生徒たちです。教師に対してとても良い態度で接してくれます。彼らは、学校や共同体から任される仕事をいつも熱心に果たしています。私はこの宣教地でとても幸せです。皆さんも幸せでありますように!。

ベトナム出身、サモアの宣教師 ペトロ・ゲン・ミン・ドゥック



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

神の僕 **コスタンティノ・ベンドラメ**(1893 - 1957)

インド北東部で働いた宣教師。今年8月27日は生誕125周年。このアルゼンチン人司祭の声は、町の広場や野原に集まった何百もの人々の心に響きました。人々は、キリストのメッセージに喜んで耳を傾けました。外面的に目立つことは、真剣な働きが伴わなければ打ち上げ花火に終わる危険があります。ドン・ベンドラメは、人々が自分のところにやって来るのを待たずにはしませんでした。“屋根の上から”福音を告げた後、人々を探しに出かけて行きました。家から家へと訪ねてまわり、人々の家庭で教えました。

オセアニアの サレジオ会員のために



サレジオ会の宣教の意向

サレジオ家族がオセアニアで、家庭の福音をあかしし、宣べ伝えることができますように。

世界のほかのところでもそうであるように、文化的、経済的、政治的な要因は、オセアニアの家庭の生活に大きな影響を与えます。キリスト教信仰の価値観のいしずえ、人間としての生き方の学び舎として、家庭という制度の宝を守ることが大いに必要とされています。

